

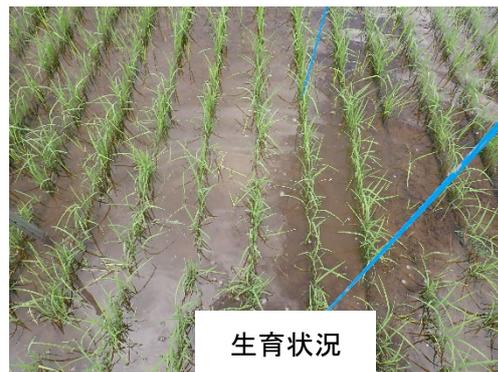
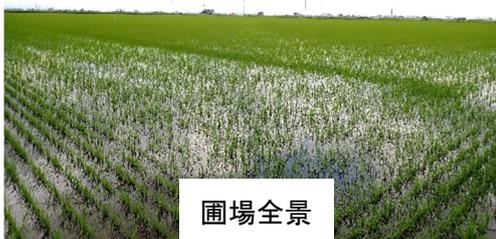
水稲V溝乾田直播栽培の生育状況（6月10日現在）

■ 耕種概要等

- ① 品 種 はれわたり
- ② 圃場造成 秋季耕起、代かき
- ③ 種子処理 種子消毒後に浸種、キヒゲン R2 フロアブル塗抹
- ④ 播種機 V溝播種機
- ⑤ 播種日 4月24日
- ⑥ 播種量 乾籾 10kg/10a 程度
- ⑦ 施肥量 窒素成分 10kg/10a 程度 (LP100)
- ⑧ 雑草防除 4月23日ラウンドアップマックスロード
 (畦畔際の雑草発生量が多かった部分のみ)
 5月12日ノミニー液剤
 5月31日プライオリティジャンボ

■ 生育状況

6月10日現在、イネの草丈は26cm程度で、㎡当たり茎数は380本程度です。一発処理剤による薬害は見られず、順調に生育しています。



■ 栽培管理のポイント

一発処理剤の除草効果を十分発揮させるためには、水管理がとても重要です。散布直前には、事前に把握した日減水深を勘案して、湛水状態を5日間保てる水深を確保します。

散布後5日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水や掛け流しを行わないようにします。早い時期に田面が露出してしまうと除草効果が十分に発揮されなくなるので注意しましょう。

散布後7日以降は雑草の再発生をできるだけ抑えるため、少し深めの5～6cmの水深で管理してください。

農薬を使用するときは、必ず最新の農薬登録情報を入手して、直播栽培に登録があることを確認してください。